様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３３９３２
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３０００５３

研究課題名（和文）アジア回廊地域における援助対策としての「パンデミック感染症への社会不安」研究

研究課題名（英文）Social Anxiety about Pandemic Infectious Diseases in the Asian Corridor from the perspective of aid support

研究代表者
成田　弘成（NARITA, HIRONARI）

桜花学園大学・学芸学部・教授

研究者番号：４０１８９２１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,400,000円

研究成果の概要（和文）：アジア経済回廊諸国(ミャンマー・タイ・ベトナム・インド)において、HIV/エイズやデング熱、鳥インフルエンザなどのパンデミック感染症に対する対策とコミュニティ住民の不安を、人類学的フィールド調査により研究した。特に東西回廊地域におけるインフラ拡大および人的移動の拡大による急速な都市化の過程は、多くの地域住民の生活ケアを十分に満足させるほどではなく、むしろ癒しを求める行動を多数発生させている。これは急速な社会変化よる不安の増加に伴う社会現象と理解される。

研究成果の概要（英文）：In this anthropological research we examine the medical prevention and social anxiety associated with the recent resurgence of pandemic infectious diseases (HIV/AIDS, Dengue Fever, Avian Influenza) in the Asian Economic Corridor Countries (Myanmar, Thailand, Vietnam, India). The development of infrastructure for transportation in the East-West Corridor area seems to promise economic prosperity in the near future, but the rapid urbanization cannot give satisfaction sufficient to meet a large demand on medical care. In this situation, we focus on the new urban people's behavior looking for healing. For example, the number of urban people who take rest in the bird cafe has increased in Vietnam very recently. This new social phenomena indicates increasing complexity of urban life with social anxiety influenced by social and environmental change.

研究分野：文化人類学

キーワード：開発援助　パンデミック　東西回廊　感染症対策　社会不安

１．研究開始当初の背景

(1)　研究対象としたアジア経済回廊諸国(ミャンマー・タイ・ベトナム・インド)は、その文化や社会構造の面で多様な相違があるが、近年のアセアン共同体の始動や東西回廊インフラの促進に伴う経済発展により、その社会的変化は劇的に変化しつつあった。そうした社会変化の実態を、政策面のみならずコミュニティ・レベルにおいて明確にすることが急務と考えられた。

(2) 経済・社会体制の変容に加えて、このアジア経済回廊諸国では HIV/エイズのみならず、デング熱や鳥インフルエンザなどのパンデミック感染症への脅威が増加しており、その対策の必要性も急務と考えられる。しかし、これらの感染症の経由は、それぞれ人間・蚊・鳥と異なるが、コミュニティの住民の不安意識と行動にどのような影響を与えているかを調べることも重要と考えられた。

２．研究の目的

(1) 急速な社会変化がもたらすコミュニティへの社会不安を明確にする為、研究対象とするアジア経済回廊諸国(ミャンマー・タイ・ベトナム・インド)の現状を、グローカル化を軸に、フィールド調査することであった。また同経済回廊諸国におけるそれぞれの地域の問題点を確認しながら、全体地域としての「不安の連鎖」の有無を解明しようとした。

(2) アジア経済回廊諸国におけるパンデミック感染症の実態とその対策についての課題を明確にする為、HIV/エイズ・デング熱・鳥インフルエンザの３つの側面から研究を行い、地域的なの医療の課題と医療協力の在り方を検討しようとした。

３．研究の方法

(1) フィールドワークを主体とした参与観察主体の調査方法により、よりコミュニティの人々の意識や行動を明確に捉えようとした。ただし、対象とするコミュニティは、地域行政単位で無差別的に選ばれるものではなく、東西回廊地域の中で影響を受けていると想定される地域、例えば東西回廊の発着点となるベトナムのダナンやミャンマーのヤンゴン等が重視された。

(2) 医療の南南協力の可能性を探求する為、タイのマヒドン大学医学部と連携して、学際的な研究体制を取った。研究対象としたアジア経済回廊諸国には、医療格差も現実には存在している故に、タイの医療モデルが先進的で指導的な役割を果たし得るか、検討した。またタイのバンコクは、メガシティとして顕著であり、その地域での医療モデルを確立することは大きな意義があると考えた。

４．研究成果

(1)「東西回廊の影響: 都市部における経済的繁栄と新しい労働スタイルの形成」

東西回廊インフラの整備によるアジア経済回廊諸国への影響については、直接、道路の高速化に伴う恩恵を受ける、ミャンマーやベトナムに経済的影響を生まれつつあった。特にミャンマーのヤンゴン、またベトナムのダナンには工業団地が形成され、都市部における経済的な繁栄が顕著化していた。実際、東西回廊インフラの整備はまだ完成していないが、少なくとも道路の改善が進み、物流の活発化や社会生活への影響が顕在化しはじめていた。例えば、道路インフラの整備がいち早く進んだベトナムのダナンでは、近郊都市の連携化が進み、遠方の出稼ぎ労働者よりも、近郊の労働者が都市部に通勤するスタイルが定着し始めていた。

(2)「東西回廊の影響: 地方における出稼ぎ問題の継続」

東西回廊インフラの整備において遅れてい

る地域は、タイ-ミャンマー間地域であり、この区間ではまだ経済効果は発生していないが、ミャンマー人のタイへの出稼ぎ移動は引き続き継続している。移動の為の交通手段としてのバスの料金は廉価であり、ローカルな交通システムはよく整備されていると言える。またタイの病院でデング熱の治療を受けていた母子とのインタビューでは、タイでのミャンマー人の無料治療は母国での治療よりも有難い旨の回答があった。

(3)「社会不安: HIV/エイズとの関連で」

東西回廊地域都市部の経済的発展と地方からの出稼ぎ継続は、少なからず人身売買の発生が高く、HIV/エイズの面から言えば、社会的不安材料となっている。実際、都市部のミャンマーのヤンゴンやベトナムのダナンには、カラオケ店が立ち並び、置屋の存在もある。しかし、両国における社会政策としてのHIV/エイズ防止に向けたキャンペーン活動は少なく、売春観光を行う外国人も問題視される。

(4)「社会不安: デング熱との関連で」

デング熱を発生させる蚊は特に「綺麗な水」に生息するので、都市部の地域で多く発生している。従って、デング熱対策を求めるデモを行ったインドのコルカタや、メガシティのタイのバンコクにおいてその発生率も高い。しかし、ベクターコントロールなどの対策も進んだタイでは、住民の社会不安は比較的低くかったが、発生率の低いミャンマーやベトナムでは、デング熱に特化した不安は低かったが、むしろ病院施設や治療体制の貧弱さを指摘する者が多かった。

(5)「社会不安: 鳥インフルエンザとの関連で」

アジア経済回廊諸国に共通して言えることは、一部の都市部でスパーマーケットの展開も見られるが、伝統的なマーケット(市場)が存続して、庶民生活の基盤となっていることである。そこでは生きた鶏や鴨、小鳥が売買されており、その取引は、鳥インフルエンザ発生期間に規制は受けるが、継続して行われている。感染の確認された鶏や鴨は、速やかに処分される体制も取られつつあるが、伝統的に鶏や鴨を常食しているアジア諸国では、鳥の食文化と呼ばれる伝統的食スタイルもあり、住民への影響は大きいと言える。

(6)「医療対策: タイ・モデルの実施に向けて」

今後、アジア経済回廊諸国がタイを中心に色々な形で連帯してゆく可能性が高いが、特に医療面では熱帯感染症治療に進んだタイの医療制度が、モデルとして効果的と考えられる。デング熱の発生率も高いタイ・バンコクでは、その発生確認から、その地域の消毒処置及びデングウイルス媒介蚊の採集などに至る過程がシステム化しており、蚊の研究と共に、消毒薬研究も進んでいる。課題は、経済格差のあるアジアの諸地域で、それぞれの感染症対策を適切に行える医療水準を持つに至ることが出来るかである。

(7) 「医療対策: 啓蒙活動とメディア」

表面的には、コミュニティ・レベルでの住民意識に、HIV/エイズ・デング熱・鳥インフルエンザというパンデミック感染症への不安は、社会不安という形で表面化していなかったが、メディアによる扇動的な記事も少なかったことによる。例えば、ジカ熱の場合には、メディアによる報道もあり、一時的人々の関心も高まった。今後の課題として、メディアを含め、パンデミック感染症に関する啓蒙活動の必要性が指摘できる。

(8) 「結論: 不安と癒し」

コミュニティの住民が意識的に不安を訴えなくても、癒しを求める行動を取り、社会現

象化して場合もある。現在、ベトナムのダナン及びその近郊地域に「小鳥カフェ」が急増しており、ベトナム全域に拡大する傾向にある。対象となる小鳥は、シャオ・マオ(ベトナム名 Chao mao、学術名 Red-whiskered Bulbul)で、アジア経済回廊諸国全域に生息している。この鳥を鑑賞するカフェは、タイにも発生しているが、他のミャンマーなどはその供給源となっている。近年、ベトナムでは小鳥のコンテストも毎週のように開催され、多くの男性が熱狂的に小鳥に癒しを求める姿が確認できる。男性たちの根源的な不安の解明については今後の課題としても、こうした社会現象に現在のアジア経済回廊諸国が抱える問題を投影して見ることは可能と言える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

① Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Shinya Hidano, Naganori Kamiya, Takashi Kobayashi, Tomohiko Takasaki, Ichro Kurane, Yuki Eshita, Hironari Narita

The Current Status of Dengue Fever and Vector Control in Thailand, Journal of the School of Liberal Arts (桜花学園大学学芸学部研究紀要), vol.7,2016, 査読有、63-76

② Raweewan Srisawat, Thipruethai Phanitchat, Narumon Komalamisra, Naoki Tamori, Lucky Runtuwene, Kaori Noguchi, Kyoko Hayashida, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Ikuo Takashima, Tomohiko Takasaki, Ichiro Kurane, Hironari Narita, Takashi Kobayashi, Yuki Eshita

Susceptibility of Aedes flavopictus miyarai and Aedes galloisi mosquito species in Japan to dengue type 2 virus. Asian Pacific Journal of Tropical Biomedicine, 査読有, Vol.6(5), 2016, 446-450.
http://dx.doi.org/10.1016/j.apjtb.2016.03.003　IF1.414 (2014)

③ Lucky Ronald Runtuwene, Kaori Noguchi, Akinori Tokunaga, Takashi Kobayashi, Kenta Nakai and Yuki Eshita

Vector competence of Aedes aegypti to dengue virus. Urban Pest Management, 査読有, Vol.4(1), 2014, 1-14.

〔学会発表〕（計　5　件）

① Narumon Komalamisra, Raweewan Srisawat, Kyoko Hayashida, Shinya Hidano, Takashi Kobayashi, Hironari Narita, Chihiro Sugimoto and Yuki Eshita,

Detection of arboviral genomes in vector mosquitoes using novel dried RT-LAMP. Joint International Tropical Medicine Meeting 2015 (JITMM 2015). 2-4 December 2015 at Amari Watergate Bangkok, Thailand. Poster session, 18:00-18:30, 2 December, 2015 Abstract of Joint International Tropical Medicine Meeting 2015

② 江下優樹、福田昌子、Lucky R. Runtuwene、野口香緒里、飛弾野真也、神山長慶、林田京子、小林隆志、Thipruethai Phanitchat、Raweewan Srisawat、Narumon Komalamisra、成田弘成、牛島廣治、倉根一郎、高崎智彦、日本国内への侵入が危惧される節足動物媒介性ウイルスと日本の蚊について。第36 回都市有害生物管理学会大会・総会、

2015 年 7 月 4(土)･5(日)、東京農業大学、東京都世田谷区。

③ Yuki Eshita, Masako Fukuda, Lucky R. Runtuwene, Kaori Noguchi, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Kyoko Hayashida, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, Hironari Narita, Hiroshi Ushijima, Arthur E. Mongan, Josef Tuda, Mihoko Imada, Junya Yamagishi, Chihiro Sugimoto, Ryuichiro Maeda, Yutaka Suzuki, Tomohiko Takasaki, Ichiro Kurane, and Takashi Kobayashi, Susceptibility of Japanese Aedes (Stegomyia) mosquitoes to arboviruses. “ The 2nd conference on asian pediatric infectious diseases（第 2 回アジア小児感染症会議）”、2015 年 6 月 20(土)、東京大学医学部 2 号館小ホール、東京都文京区。

④ Yuki Eshita, Masako Fukuda, Lucky R. Runtuwene, Shinya Hidano, Kyoko Hayashida, Raweewan Srisawat, Narumon Komalamisra, TomohikoTakasaki, Ichiro Kurane, Hironari Narita, Hiroshi Ushijima, Junya Yamagishi, Chihiro Sugimoto, Yutaka Suzuki and Takashi Kobayashi, Susceptibility of Japanese Aedes mosquitoes to arboviruses, Second International Workshop on Aedes albopictus, the dengue vector. Southern Medical University, Guanzou, P.R. China, March 23-26, 2015.

⑤ 岩中　愛、松原祥恵、福田昌子、Thipruethai Phanitchat、Raweewan Srisawat、Lucky R. Runtuwene、野口香緒里、Arthur E. Mongan、鈴木　穣、Narumon Komalamisra、成田弘成、森田公一、倉根一郎、高崎智彦、林田京子、杉本千尋、小林隆志、江下優樹 RT-LAMP 法の改良によるアルボウイルス症診断の検討。第 26 回日本環境動物昆虫学会年次大会、長崎大学教育学部、長崎市、2014 年 11 月 29 日（土）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
成田弘成　　（NARITA, Hironari）
桜花学園大学・学芸学部・教授
研究者番号：40189212

(2)研究分担者
江下優樹　　（ESHITA, Yuki）
大分大学・医学部・客員研究員
研究者番号： 10082223

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）